

青森県五所川原市
移住ガイドブック

ぐしよぐらし

ぐしよがわらって、
笑顔が似合う。



移住者インタビュー
わたしの「ぐしよぐらし」

五所川原の暮らしガイド

仕事や子育て、住まいのことなど、
移住に役立つ情報が満載！

- 移住の流れをわかりやすく解説！
- ぐしよぐらしMAP



- 01 五所川原市について
- 03 | 特集 | わたしの「ごしょぐらし」
- 05 五所川原の四季
- 07 五所川原の「暮らし」
- 09 五所川原の「仕事」
- 10 五所川原の「子育て」
- 11 五所川原の「伝統」と「文化」
- 13 五所川原移住ガイド
- 14 ごしょぐらしMAP

暮らしやすさが、 ごしょぐらしさ。

津軽の人々のこころのふるさと
 霊峰「岩木山」。
 そこから流れる雪解け水は
 津軽平野を流れ
 肥沃な土壌を育み
 十三湖へと注がれます。
 豊かな自然が織りなす海の幸・山の幸は
 人々のこころに
 明日への活力を生み出します。
 四季の移ろいと自然の恵みを
 五感で感じながら
 ゆったりした時間が流れる五所川原で
 あたらしい暮らしをはじめてみませんか？



五所川原市について

五所川原市は、作家・太宰治の生家「斜陽館」、中世安藤氏の十三湊遺跡群、さらには、壮大な夏祭り「五所川原立佞武多」といった魅力的な歴史・文化資源が数多く残る場所です。
 また、この地方の要となる大型病院、買い物に便利な大型商業施設があるほか、文化・スポーツ施設、緑地なども充実しています。
 四季により表情を変える自然環境は、住む人の心に豊かさを与え、そこで育まれた新鮮な農林水産物は、まさに五所川原の賜物です。
 豊かな自然と都市機能の調和、それが五所川原市の魅力です。



基本データ		出典：H27 国勢調査等	
総面積	404.18km ²	世帯数	21,143世帯
総人口	55,181人	年平均気温	10.3℃
人口密度	137人/km ²	年間降水量	1,223.8mm



津軽地方の中心として

五所川原市では現在、津軽地方の近隣市町である、つがる市、鯉ヶ沢町、深浦町、鶴田町、中泊町とともに、定住自立圏での取り組みを進めています。

定住自立圏では、安心安全に暮らすことができる社会の実現のため、医療機能の充実や、交通・情報ネットワークの強化など、五所川原市が中心的な役割を担いながら、二市四町が一体となって地域の魅力を高めていきます。



いつかはここで 自分の窯を 持つことが夢です。



Q 五所川原に移住したきっかけは？

A もともと東京で陶芸家として活動していましたが、地方での子育てと作陶活動に魅力を感じ、移住を考えるようになりました。そして、妻の実家が五所川原に近かったことや、津軽金山焼の窯元に出会ってその魅力に惹かれたことがきっかけで、五所川原への移住を決めました。

Q 五所川原に移住して良かったことは？

A 都会暮らしだと人と人の距離が近すぎて疲れてしまいましたが、五所川原は土地が広く、ゆったりと暮らせるので、ちょうどいい距離感で人と接することができるのが良いところですね。

Q ごしょぐらしの魅力とは？

A やっぱり新鮮な食材が多く、食べ物が美味しいことですかね。あとは、雪国で

寒いせいか、人があったかいことですね。ちょっと困ったことがあると、みんなすぐに手を貸してくれるのでとても助かっています。



それと、職場は山の中で自然に囲まれています。最も近いショッピングセンター（エルム）や市街地まで車でわずか10分程度で行けてしまうアクセスの良さですかね。

Q 五所川原で叶えたい夢はありますか？

A 現在は津軽金山焼の窯を借りて作陶活動をしています。やはり陶芸家である以上は自分の窯を持つことが夢ですので、五所川原に自分の窯を作り、活動の幅を広げていきたいと考えています。



中鉢 徹さん

東京都から移住

▶ 職業 …………… 陶芸家
▶ 移住時期 …………… 2008年



若い人たちが農業に一生懸命で、とても刺激になります。

Q 五所川原に移住したきっかけは？

A 妻の実家が五所川原で花の農家を営んでいたのですが、後継者がおらず辞めてしまうということだったので、私がおもとと農業に興味を持っていました。移住して農家を継ぐことにしました。

Q 五所川原に移住して良かったことは？

A 農業をしている知り合いがたくさんで、新鮮で美味しい食材が手に入るので毎日「食」を楽しむことができます。また、五所川原

ならではの美味しい食べ方なども地元の方に教えていただき、みなさん親切なのがうれしいです。

Q 五所川原はどんな仕事環境ですか？

A 農業をするにはとても恵まれている場所だと思います。若い方も一生懸命取り組んでいますし、冬の厳しさもありますが、夏は暑すぎないため、そういった特徴的な気候を活かした作物で全国的に売れ出すなど、がんばっている方が周りに多いので、とても刺激になります。



宮崎 悠さん

宮城県から移住

▶ 職業 …………… 花き農家
▶ 移住時期 …………… 2011年



五所川原の魅力的な文化を、子どもたちに誇りに思ってもらいたいです。

Q 五所川原に移住したきっかけは？

A 中世日本有数の湊町であった十三湊の遺跡調査のため、学生の頃に五所川原へ訪れたことがきっかけで、十三湊を支配したとされる安藤氏の

世界に魅せられ、それから五所川原の歴史遺産について詳しく知りたいと思い、移住を決意しました。

Q ごしょぐらしの魅力とは？

A 私は現在、五所川原市の文化財行政に携わっており、歴史遺産や民俗芸能などに触れる機会が多いのですが、五所川原には歴史

ある文化が数多く残っており、今でも身近に触れることができるのがとても魅力的ですね。

Q 五所川原で叶えたい夢はありますか？

A 五所川原に残る多くの歴史遺産や民俗芸能などを、より深く地域の子どもたちに知ってもらえるような取り組みを進めていきたいと思っています。さらに、その活動を通じて「自分たちはこんなに素敵な場所に住んでいるんだ」と感じてもらい、五所川原の歴史や文化を誇りに思ってもらいたいです。



榊原 滋高さん

愛知県から移住

▶ 職業 …………… 五所川原市職員
▶ 移住時期 …………… 1994年



春

五所川原の

日本さくら名所百選に選ばれる青森県立芦野公園。約千五百本の桜と松並木が湖畔に広がる五所川原市民の憩いの場です。「金木桜まつり」には、津軽鉄道の「走れメロス」号に乗り、満開の桜のトンネルを楽しむ大勢の人々が賑わいます。



秋

五所川原の

岩木山を背に広がる赤や黄色に染まるりんご畑と一面黄金色の田んぼ。ここは日本有数のりんごの産地であり穀倉地帯でもあります。豊かな自然に育まれた安全安心な美味しい食材は、日々の生活を豊かなものにしてくれます。



夏

五所川原の

「五所川原立佞武多」高さ約二十三メートル、重さ約十九トンのその威容は五所川原市民の魂の象徴です。短く冷涼な五所川原市の夏も、立佞武多祭りの期間は熱く燃え上がります。市内にある多くの神社では連日「宵宮」が、岩木川河川敷では花火大会もあり、祭りムード一色になります。



冬

五所川原の

北国特有の積雪により、一面の銀世界が広がります。地面の雪が強い風に舞いあげられる「地吹雪」は冬の風物詩。寒い外と相まって、市内各所にある温泉、郷土料理と地酒は心も体も温めてくれます。また、ウィンタースポーツも満喫できます。



充実した生活環境と、豊かな自然環境が調和するまち。

ごしょぐらしの魅力はなんといっても、都会と田舎のバランスがとれた住みやすさです。買い物に便利な大型ショッピングセンターに各種大型店舗、充実した医療施設に交通インフラなど、便利な生活環境とともに、その背景には豊かな自然が育むゆっくりとした時間が流れています。

生活の便利さと自然の豊かさ、そのちょうどいい距離感こそが五所川原の「暮らし」です。



充実した生活環境

つがる総合病院を中心とする多くの医療施設をはじめ、利便性の高い交通手段や公共施設が揃っており、充実した生活環境が整っています。

医療施設

五所川原の医療施設数は79施設あり、さまざまな診療科の医療機関があります。五所川原圏域内では地域医療連携を行い、病院と病院、あるいは病院と診療所が互いに連携し合い、患者さんにとって負担の少ない最適な医療を地域全体で提供する取り組みをしています。

- 病院……………6か所
- 診療所……………48か所
- 歯科診療所……………25か所
- 病床数……………1,104床



つがる総合病院

交通環境

「津軽鉄道」は津軽五所川原を起点とした津軽中里までの20.7kmの鉄道で、ストーブ列車・風鈴列車・ホテル列車・鈴虫列車など季節の風物詩となる列車を運行し、「つてつ」の愛称で多くの人々に親しまれています。沿線住民にはもちろん観光客にも好評です。

- 鉄道……………2路線
- 路線バス……………18路線
- コミュニティバス
- 商業施設へのシャトルバス



▶津軽鉄道
昭和5年から運行している日本最北の民間鉄道で、市民の生活の足として親しまれています。

公共施設

公園で季節の花を楽しんだり、実際に体験して地域の文化に触れたり、五所川原には家族と一緒に出かけられる公園や文化施設が充実しています。

- 図書館……………3館
- 博物館・美術館……………7館
- 文化ホール・公民館……………3館
- 公園……………20か所



立佞武多の館

五所川原の気候

五所川原の年平均気温は10.3℃と冷涼で過ごしやすく、春から秋にかけては、台風、梅雨の影響をあまり受けないためとても快適です。冬の積雪量が多いですが、ウィンタースポーツを楽しめます。



住まいの支援制度

五所川原では、移住者のための住まいに関する支援制度が充実しているため、ライフスタイルに合わせた住まい選びが可能です。

アパート・貸家を借りる方

実質家賃負担額の半額を補助します。 **上限2万円**

対象となる方
当市に世帯全員で移住し、中学生以下の子どもがいる家庭

マイホームを建てる方

新築住宅の取得に係る費用を補助します。 **上限100万円**

対象となる方
当市に移住し、以下のどちらかを満たす方
①中学生以下の子どもがいる家庭
②40歳以下の夫婦

ここもcheck! 「空き家バンク」の活用 ▶▶ 五所川原圏域にて空き家物件を登録、照会できるシステムです。リフォーム助成と一緒に利用して、ごしょぐらしを満喫してみませんか?

便利な買い物環境

郊外型の大型ショッピングセンターには各種専門店があるほか、その周辺には家電量販店などの各種大型店舗が集積しており、近隣のまちだけでなく県外からも多くの家族連れや若者が集い、賑わいを見せています。



シャトルバスで
買い物も便利に!



ELM
「ELM(エルム)」は五所川原市内にある複合型ショッピングセンター。青森県初上陸の店舗も多く、買う・食べる・遊ぶが揃った、生活に便利な施設です。

豊かな食文化

海と山に囲まれ、豊かな自然に恵まれた五所川原は、四季折々の多彩な食材にあふれています。新鮮で美味しい食材がいつでも手に入る環境があることも、五所川原の魅力の一つです。



赤〜いりんご「御所川原」
皮だけでなく果肉まで赤い「赤〜いりんご」。加工するとジャムやジュース、お酒まで赤〜くなる。世界でも非常に珍しい品種のりんごです。



十三湖の「ヤマトシジミ」
市浦地区十三湖で獲れるヤマトシジミ。十三湖は全国有数のしじみ産地であり、大きさや肉厚も大変素晴らしい。県内外で高い人気があります。



金木地区の「馬肉」
古くから馬の産地である金木地区では、鍋料理や、刺身などで馬肉が愛されてきました。最近では低カロリー・高タンパク食材として注目されています。



幻の「市浦牛」
昭和62年、東北・北海道ブロックの品評会で東日本チャンピオンに輝き、「幻の市浦牛」とも呼ばれ、高級ブランドとして長く愛されています。

五所川原の「仕事」

豊かな自然を活かした、
五所川原ならではの産業。

五所川原は、津軽平野の新田開拓から農業の中心として栄え、明治以降は農産物を中心とした流通拠点として、商業・流通によって発展してきました。第一次産業では米、リンゴの生産が多く、ほかにトマトやつくね芋の生産、十三湖のヤマトシジミ漁も盛んです。

さらに近年では、津軽金山焼など五所川原の文化を活かした職業を選ばれる方もいます。



五所川原の「子育て」

安心できる環境と支援制度で、
子育てをしっかりとサポート。

市内には26か所の教育・保育施設があり、市としてもさまざまな制度によって子育てを支援しています。また、子どもを対象とした市民団体の活動も活発で、地域における教育への関心の高さがうかがえます。



青森県は0～5歳人口10万人当たりの保育所数は全国で最も多く、保育所待機児童はゼロです。



教育・保育施設等

- 認定こども園 17園
- 保育所 6か所
- 幼稚園 3園
- 小学校 11校
- 中学校 6校

稲作



五所川原は県内有数の米どころです。春には雪の残る岩木山を背に田植えが始まり、秋には美しい黄金色の稲穂が一面に広がります。

りんご栽培



りんごの栽培が盛んで、近年では黄色いりんご「トキ」や、赤〜いりんご「御所川原」などの品種が五所川原発祥として注目されています。

十三湖のヤマトシジミ漁



十三湖で収穫されるヤマトシジミは全国でも有数の生産量を誇ります。

子育ての支援制度

五所川原では、誰もが安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを推進するため、子育て支援制度の充実に力を入れています。

給付や手当の支給

子宝祝金支給事業

出産した方に対して10万円を支給します。

対象となる方 第3子以降を出産した方

乳幼児医療費給付制度

入院・外来における医療費自己負担部分を給付します。

対象となる方 0歳児から小学校入学前までの子どもがいる方 (所得制限有り)

地域で子育てを応援！

放課後児童健全育成事業

授業終了後、学校の施設などを利用して適切な遊びおよび生活の場を与えて、子どもの健全な育成を図ります。

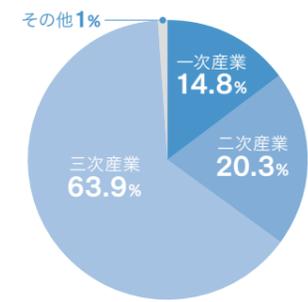
対象となる方 保護者が労働などにより日中留守にする家庭の子ども

ファミリー・サポート・センター

五所川原市では子育ての相互援助活動を行っています。

- ① 保育施設の開始前や終了後に子どもをお預かりします。
- ② 保育施設、学校への子どもの送り迎えをします。
- ③ 学校や学童保育終了後、子どもをお預かりします。
- ④ 突発的な事情などで子どもの世話ができない時、子どもをお預かりします。

就業者数データ



出典：H22 国勢調査

豊かな自然の恩恵である一次産業を生業とする人の他にも、製造業やサービス業など、業種は多岐にわたります。また、豊富な食資源を活かして飲食業を開業する方も増えています。

仕事の支援制度

移住して新しい仕事にチャレンジしたい!という方を応援するため、五所川原ではさまざまな支援制度をご用意しています。

UIJターン若者就職奨励事業

UIJターン就職者の方へ、1世帯につき1回、20万円の奨励金を支給します。

対象となる方 青森県内の事業所に正規雇用されたUIJターン就職者の方

創業相談ルーム

創業・起業支援の専門家「インキュベーション・マネージャー（IM）」が、構想・企画の段階から創業・起業に至るまで、皆さんのご相談に対応します。 相談無料

空き店舗対策家賃補助事業

事業者が中心商店街等の空き店舗を賃借して出店する場合の家賃の一部を補助します。

対象となる方 中心商店街等にある空き店舗を利用して営業を開始した事業者の方

詳しい情報はここから ▶▶ 五所川原市「子育て応援サイト」 <http://www.city.goshogawara.lg.jp/kosodate/>

五所川原の「伝統」と「文化」



伝統を受け継ぎ、文化を育む。
未来に残したい暮らしの姿。

五所川原には、古くから伝わる祭りや芸能、ゆかりの文学に新たな工芸品など、暮らしを彩る数々の文化が存在します。
桜を揺らす津軽三味線の音色や、夏の夜を彩る立佞武多、陶芸や文学に触れる秋に、雪国ならではの生活文化。こうして四季に華を添え、人々に親しまれてきた文化は、これからも「ごしょぐらし」の一部として受け継がれ、未来へと育まれていくことでしょう。

伝統や文化に触れる



大型立佞武多を常時観覧することができ、立佞武多の製作体験なども行っています。



芦野公園駅の旧駅舎を改装した喫茶店で、太宰治の小説にも登場する場所です。



金木町周辺の観光スポットの紹介をはじめ、物産品や郷土料理も取り揃えています。

五所川原には、伝統や文化を観て、触れて、味わって、実際に体験できるスポットがたくさんあります。

伝統は守られ、育まれる。

古くから人々に愛されてきた奥津軽の音色と、人々の思いで新たに蘇った美しい色彩。五所川原には、守りたい文化があります。

守る 津軽三味線発祥の地

厳しい風土から生まれた津軽三味線。旧金木町出身の仁太坊によって、叩き奏法や八人芸が造り出されました。やがて、仁太坊の弟子たちによって津軽三味線の基礎が築かれ、現在でもその豪快華麗な音楽は多くのファンに愛されています。



育む 新たな伝統「津軽金山焼」

須恵器の一大生産地であった五所川原を再び陶芸の里として蘇らせたいという思いから、津軽金山焼は生まれました。釉薬を一切使わず、焼き締めという手法で作られた自然で深みのある風合いが特徴で、新たな伝統産業として注目されています。



太宰文学ルーツの地

太宰治は「語り口調の天才」と呼ばれた小説家で、「人間失格」や「走れメロス」など数多くの名作を生み出しました。太宰文学は今もなお愛され続けています。太宰は父・源右衛門と母・タ子(タネ)の6男として、青森県北津軽郡金木町(現・五所川原市)に生を受けました。病弱な母に代わって、同居していた叔母・きゑや、子守りの越野タケに育てられた太宰。添い寝しながら毎晩聞いた昔ツコの独特のリズムが「語り口調の天才」と呼ばれるに至るルーツなのかもしれません。

太宰治記念館「斜陽館」

明治40年に建てられた太宰の生家。国の重要文化財に指定され、蔵を利用した展示室には、直筆原稿や太宰が着用していた二重回しのマント、川端康成や兄・文治との書簡など、約六百点の貴重な資料が展示されています。



太宰治記念館「斜陽館」



斜陽館内

五所川原の祭り

四季の移ろいがはっきりしている五所川原には、春夏秋冬の美しい景色、風情を楽しめる祭りがあります。



金木桜まつり <4月下旬～5月上旬>



立佞武多祭り <8月上旬>

芦野公園で開催される桜まつりは、毎年多くの花見客で賑わい、会期中には「津軽三味線全日本金木大会」が祭りに華を添えます。

高さ約23メートルもある立佞武多の山車が市街地を練り歩き、その圧倒的迫力で沿道の観客を魅了します。

ごしょぐらしMAP



交通アクセス

飛行機の場合	JRの場合
<p>東京 → 1時間15分～20分</p> <p>大阪(伊丹) → 1時間30分～35分 / 1時間45分～50分</p> <p>札幌(千歳) → 50分</p> <p>名古屋小牧 → 1時間20分～25分</p> <p>ソウル → 2時間20分～35分</p>	<p>札幌 → 所要時間: 約5時間20分</p> <p>新大阪 → 所要時間: 約3時間</p>

長距離バスの場合
<p>東京(新宿) → 弘前・五所川原 (約8時間30分～9時間)</p> <p>横浜・品川・浜松町 → 弘前・五所川原 (約9時間15分～45分)</p> <p>上野 → 弘前・青森 (約9時間)</p> <p>東京 → 青森 (約10時間10分)</p> <p>東京 → 青森 (約9時間35分)</p> <p>仙台 → 弘前 (約4時間35分～50分)</p> <p>仙台 → 青森 (約5時間5分～20分)</p> <p>盛岡 → 弘前 (約2時間15分)</p> <p>盛岡 → 青森 (約2時間44分)</p>

移住までの流れ

STEP 1 まずは家族に相談する。

五所川原への移住を考えたらず、まずは家族に相談してみましょう。移住の目的や、移住後の暮らしのイメージをしっかりと家族で話し合い、共有することが大切です。家族の理解が得られてこそ、五所川原での充実した暮らしにつながります。

STEP 2 五所川原の情報を集める。

仕事のことや住まいのこと、教育や生活環境など、五所川原についての情報をなるべく多く集めて、実際の暮らしをイメージしてみましょう。もし気になることや、わからないことがあれば、お気軽に五所川原市までご相談ください。

STEP 3 ごしょぐらしを体験する。

いくら地域の情報を集めて暮らしのイメージができて、いきなり移住するにはまだ多くの不安があるはず。まずは五所川原へ足を運び、しばらく滞在しながら実際の暮らしを体験してみましょう。

STEP 4 仕事と住まいを探す。

実際にごしょぐらしを体験して移住を決めたら、次はいよいよ仕事と住まいを探して生活の準備です。五所川原市では就職や住居探しに関するさまざまな支援制度を設けております。詳細はWEBサイト「ごしょぐらし」でも確認できますので、是非ご利用ください。

ごしょぐらしをスタート!!

移住関連サイト

五所川原市移住支援サイト「ごしょぐらし」

五所川原市の暮らしに関する情報をまとめた移住支援サイトです。仕事や住まい、子育てのことなど、移住に役立つ情報を発信しています。

アクセスはコチラから

ごしょぐらし

<http://www.city.goshogawara.lg.jp/ijuu/>

オリジナル 移住ドラマ配信中!

移住ミステリードラマ

五所川原は突然に

全5話

- 青森県移住・交流ポータルサイト「あomor暮らし」
<http://www.aomori-life.jp/index.html>
- 五所川原市公式観光サイト
<http://www.city.goshogawara.lg.jp/tourism/>

- 五所川原市ホームページ
<http://www.city.goshogawara.lg.jp/>
- 五所川原市子育て応援サイト
<http://www.city.goshogawara.lg.jp/kosodate/>

婚活サポート事業

五所川原市は、少子化の要因の1つとされる未婚化・晩婚化対策として、結婚を希望する方々のステキな出会いを応援するため「ごしょぐら縁結びサポートセンター」を開設しました! サポートセンターでは、会ってみたいお相手とのマッチング(お見合い)を支援します。

ステキな出会いを見つけよう♡

アクセスはコチラから

ごしょぐら縁結びサポートセンター

<http://www.city.goshogawara.lg.jp/marriage/>

※ご利用される列車や日時によって、目的地までの所要時間が変わります。あらかじめ駅窓口にてお尋ねいただくか、大型時刻表をご確認ください。

※昼・夜の表示の無い場合は夜行となります。ヨードル号以外の路線は要予約。